

講習会「性能設計に基づく耐震設計事例の紹介」報告

平成 22 年 1 月 25 日（月）13：30～17：00、土木学会講堂にて、日本地震工学会と（社）土木学会の共催で講習会「性能設計に基づく耐震設計事例の紹介 (International Workshop on Design Examples Based on ISO-23469: Performance-Based Design for Geotechnical Works)」が開催されました。ISO23469 適合事例集 WG（土木学会地震工学委員会）活動をもとに、日本国内の設計手順が国際的にはどのような位置づけにあるかについて、合計 6 名の講師の先生方により、講習が実施されました。プログラムは以下の通りです。

1. ISO23469 およびそれに準拠した耐震設計事例集の開発 : 森伸一郎（愛媛大学）
2. 地震作用の設定（第一段階）に関する事例の紹介 : 中村晋（日本大学）
3. 地震作用の設定（第二段階）に関する事例の紹介 : 飛田哲男（京都大学）
4. 簡易および詳細な方法による埋設構造物の設計事例 : Craig Davis(LADWP)
京都大学・飛田先生による代理説明
5. 簡易および詳細な方法による重力式岸壁の設計事例 : 一井康二（広島大学）
6. 橋梁基礎の設計事例 : 室野剛隆（鉄道総合技術研究所）
7. 理論的なアプローチに基づく地震動の設定 : 香川敬生（鳥取大学）



森先生による趣旨説明



質疑応答の様子

森先生からは、ISO23469 適合事例集 WG（土木学会地震工学委員会）の活動の背景や、講習会で配布された国際規格 ISO23469「地盤基礎構造物の設計のための地震作用」の委員会原案についてご説明頂きました。中村先生からは、地震作用の設定（第一段階）に関する事例を、飛田先生からは地震作用の設定（第二段階）に関する事例の紹介をして頂きました。また、今回唯一の海外からの執筆となる Davis 様による簡易および詳細な方法による埋設構造物の設計事例を、飛田先生に代理で説明頂きました。一井先生からは、港湾構造物（簡易および詳細な方法による重力式岸壁）の設計事例を、室野様からは、鉄道構造物（RC杭基礎橋脚）の設計事例を紹介頂きました。香川先生からは、大阪府上町断層帯を例に理論的なアプローチに基づく地震動の設定について紹介頂きました。

当日は、当初の予定を上回る 60 余名の方が出席され熱心に聴講されました。また、今後の適合事例集のあり方についても活発な意見が交換されました。

最後に、貴重な講習を賜りました講師の先生方に心より御礼申し上げます。

（文責：中央復建コンサルタント(株) 安西綾子）